
DOGDAYS ~ 猛き旅人

黄昏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DOG DAYS ～猛き旅人

【Nコード】

N6404U

【作者名】

黄昏

【あらすじ】

いろいろな所を旅していた三ツ國鏡也の人生はひよんな事から知り合ったシンク・イズミと変わった方へ進んでいく？

鏡也「ここは・・・パラダイスか・・・？」

オリ主紹介（前書き）

初投稿ですw w

かなり投稿遅いですがよければ読んでくださいw

オリ主紹介

三ツ國鏡也 みつくに きょうや

歳 15

武器 鎌、籠手（指先から肘まで）、小太刀、鎖など

紋章 双頭の狼（白銀）

戦闘法 さまざまな格闘技術を組み合わせた「三ツ國格闘流」みつにかくとうりゅう、複数の剣術から生まれた

「三ツ國流刃術」みつくにらふじんじゅつ

好物 肉 最近は生肉にハマっている（何故か腹を壊さない）
嫌いな物、事 キノコ（口に入っただけで拒否反応を起こす）、馬
鹿にされる事、大切な物を傷つけられること
性格 気さくであり、雑 そして短気

7歳の頃に両親を亡くし、8歳からいろいろな国を旅している。

シンクと出合ったのは、シンクが1年の冬に、家の前で空腹で倒れていた所を助けて貰い

知り合った。

獣耳好きと後先考えず行動するという、致命的な欠点がある。

オリ主紹介（後書き）

鏡也「……………」

黄昏「……………」

鏡「……………何故書いた？」

黄「鵜い出来心で……………後、趣味」

鏡「……………オイ……………」

勇者との出会い（前書き）

はい・・・やっと1話です

勇者との出会い

今亡き親父・・・そしてお袋・・・

貴方達の息子・・・三ツ國鏡也は元気でやっております・・・

只今・・・絶賛落下中でございますが！！

「ねえ！鏡也！これ大丈夫かな！？大丈夫なのかな！？」

隣で騒いでいるのは、アスレチック少年シンク・イズミ・・・という
か・・・

「うるせえ！静かにしろ！どうにかなる！・・・多分」

「ええ！？ちよつと多分て何！？」

「だからうるせえ！あの犬お前狙いだっだろうが！俺は巻き込まれてんだ！！」

「いやで「うるせえって！黙らねえと孤剛一閃叩き込むぞ！」うう・・・」

時の始まりは二千ね・・・いや2カ月前・・・

side第3者

日本・紀ノ川市 冬

「うう・・・腹減った・・・」

アメリカから帰国した鏡也は、坂をふらふら歩きながら呟いた。

「くそ・・・\$を円にするのを忘れて飯を食い損ねるとは・・・もう駄目だ・・・」

ドサッ

そう呟き道に倒れた・・・ある家の前で・・・

s i d e シンク

学校から帰った僕が見たものは・

「え〜と・・・・・・・・」

人・・・家の前で倒れている人

「・・・だ、大丈夫ですか!？」

その瞬間・・・・・・・・

ぐううううううう

「うわあ!？び・・・ビツクリした・・・」

強烈な空腹音

「と・・・取りあえず・・・・・・・・家へ運ぼうか・・・」

「シンク？」

「え？あ、ベツキー!」

ベツキーがいた・・・いやー・・・助かった。

「ちよつとこの人運ぶの手伝ってくれない？」

「え？あ、うん!」

それから二人でその人を運んだ・・・けど物凄く軽かった。

t o b e c o n t i n u e

勇者との出会い（後書き）

感想とか駄目だしいろいろまってまっす

勇者と共に（前書き）

はいゝw w

3話です

では・・・GO！

勇者と共に

s i e d シンク

倒れていた人を運んだ後、ベッキーが目玉焼きくらいしか作れない僕に

夕食を作ってくれたんだけど・・・

モグモグ・・・ング・・・ぷはあ・・・

ガツガツ・・・ングング・・・ふう・・・

「・・・」

かなり多く作ってもらった夕食が物凄い速さでさつき起きたばかりの人の胃に、吸い込まれていく・・・

「ふう・・・ごちそうさまでした！」

「お、お粗末さまでした・・・」

これは・・・ベッキーも驚くよね・・・

「いや、助かったよ・・・君達名前は？」

あれ？見た目と違って結構気さくみたいだ・・・

「あ、僕はシンク・イズミ、シンクでいいよ」

「私はレベッカ・アンダーソンよ、ベッキーって呼ばれてるわ」

「シンクにベッキーか……あれ？ここって・・・日本だよな？」

あれ？混乱してる？

とりあえず説明しなきゃ・・・

～～シンク説明中～～

「は……そーゆうことか……おっと、俺の自己紹介がまだだったな、俺は三ツ國鏡也だ」

s i d e o u t

side 鏡也

…いやねwwちょっと出会いを説明しようと思ったのさww
それから暫くシンクの家に世話になって……今日の朝

「シンク、鏡也、起きてる？」

「うん！今起きたとこ！」

「こっちは徹夜だー！！」

ベッキーが迎えに来たと同時にシンクが目覚める

ん？俺？ははww獣耳娘の画像拾ってたさww

余談だが、俺が獣耳好きって事をシンクに教えたら若干引かれたけどww

そして……俺もシンクも…あの天国^{ヘヴン}に行くなんて、この時は考えもしなかったんだ…

t o b e c o n t i n u e

勇者と共に（後書き）

後書き会話 1

黄「はい、始めました後書き会話のコーナーでっせww」

鏡「オイ」

黄「およ？どつたよ？鏡也くん」

鏡「何だよこのコーナーは？」

黄「趣味」

鏡「分かった、何言っても無駄だな」

黄「よろしいww」

鏡「さて、今回は俺とシンの召喚直前の出来事だな」

黄「うん、学校で授業サボって書いてたww」

鏡「真面目に受けるよ……ところで」

黄「ん？」

鏡「俺って怖いのか？」

黄「キャラ紹介には書いてないけど、お前の髪色……赤だよ？」

鏡「書いとけよ……って……なんか髪が突然赤色に!!」

黄「なんか騒いでる奴はほつといて……質問、駄目出し、アドバイス待つてマースww」

鏡「一人でしめんなあああ!!!!」

後書き会話 1

続く

勇者と出発〜レッツゴーへヴン〜（前書き）

訂正：前は回は2話のはずでしたが、誤って3話としていました
申し訳有りませんでした。

いざ3話！

鏡「ちよつとまてええ！！」

何？

鏡「何だよこのタイトルの横のやつ！」

別にいいだろ？でわ…ご〜

鏡「話を聞けえええ！！」

〜 始まります・・・〜

勇者と出発！レッツゴーヘヴン！

「鏡也！行くよ！」

「おゝ、つと悪い！出発準備終わってねえ！」

え？何処行くかって？ふふふ・・・

なんと！シンクについて行くんだじえ！

えゝと、確かイギリスのコーンウォールだっけ？あそこはまだ行つた事無いんだよなあ

・・・楽しみだw

「分かった！じゃあ校門で待つてて！」

シンクはそう言うつとベランダから飛び降りた・・・

そして、空中で切りもみ1回転で着地、落ちてきたバッグも見事キヤッチ。

・・・元気だねえ・・・そういや今日終業式だっけ？・・・年下だったのか…

まあさつさと準備しよつと・・・

~~~~~鏡也準備中~~~~~

「ふー・・・終わった・・・シンク達は今頃終業式の真つ最中かな？」

終業式も含めて集会つて眠くなるよなあ・・・

かさっ

・・・何故手を置いたら紙がこすれる音がする？

恐る恐る手元を見ると・・・

「これ・・・シンクの分のチケットじゃん・・・あの馬鹿野郎！」

忘れて行きやがった・・・届ねえと！

「よつと！」

ベランダに出て今朝のシンクのようにバッグを投げ・・・

「とりやああ！」

飛び降りる。

「よいしょと」

よしwwないすちやくちwww

「ふつ、我ながら「ひゅ」見事なちやくて「ゴスッ」・・・いつてええ！」

投げたバックが頭に直撃する。シンクの様にはできねえなあ……

「いてえよお・・・誰だバックなんか投げたのは！！・・・あ、俺か……、つて嘆いてる場合じゃない！」

シンクのいる学校へと走り出す。

その後学校着くまでにいろいろあったが……  
割愛。

んで学校に着いたはいいが・・・シンクが屋根の上にいる・・・取りあえず近づいて・・・

「おいシンクー！チケットー！」

「鏡也！ありがとう！なくしたかと思った！」

そう言つて飛び降りるアスレチック少年・・・元気だねえ・・・

その瞬間

バツ！

花壇の影から犬が飛び出してきた……剣を咥えて

「え？」

「は？」

犬が剣を地面に刺した時、穴が開く

「うわあああ！？」

「シンク！」

とっさにシンクの手を掴み、腰に束ねてある鎖を何かに巻きつけようと投げるが……

キンッ！

犬に弾き返された……何してくれんじゃああ!!  
「うわあああ!!」

t o b e c o n t i n u e

勇者と出発！レッツゴーへヴン！（後書き）

後書き会話 2

鏡「ふんっ！」

黄「ぬぐは！」

シ「え〜と・・・黄昏さんが気絶しちゃったんで・・・

鏡「今回は臨時休業とさせていただきます」

シ鏡「それでわ！」

天国と書いてヘヴンと読む（前書き）

長らく投稿せずすみませんorz・・・  
3話始まります・・・

## 天国と書いてヘヴンと読む

回想終了つと・・・

「鏡也！地面見えてきたよ！」

あ、ホントに見えてきた・・・でもあれって……

「シンク……あれは浮かんてるから地面じゃないと思うなあ……」  
そう……シンクの言った地面は浮かんてる……しかもたくさんっ！

尚且つ、某天空の城ラ。ユタより圧倒的に小さいし、そもそも城ですらない。

んなこと考えてる間に、浮島（浮地？）が近づいて来る。

「シンク！着地用意！」

「え！？わ、分かった！」

シンクと共に着地態勢をとる。

「iiiiiiiiいよいよおお！！！」

気合いを入れて両足で着地！……………するつもりが……

「きよ、鏡也？なんか速度が……」

「うわ……何？気合い入れた俺めっちゃ恥ずかしいんだけど……」  
そのままゆっくりと着地したが……

「あいたた……」

「オイ、シンク失敗すんなよ今の速度で」

そういつてこけてるシンクを立たせる

「ハアハア……ゆ、勇者様……って……ふ、二人？」

「え？」

「なんだ？……って！！！」

後ろから声がしたので振り向くと……

なんとそこには……………

t  
o  
b  
e  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e

## 天国と書いてヘヴンと読む（後書き）

後書き 3

シ「ハイ！ 始めました！」

鏡「後書きコ」 「オイ」 ナ？

何故お前らだけで進めようとする？

シ「あ、復活したんですね」

鏡「……チツ」

鏡也てめ何舌打ちし「沈め」 ぐほっ！？

シ「鏡也つて…ときどきすごく怖いよね」

鏡「そうか？」

シ「うん」

鏡「まあ、今回はここまで！ またよろしくお願いします！」

シ「じ、自由すぎる……で、でわまた……」

・  
ぐふ……じ、次回から設定など、裏話っぽいことを……します……  
で、でわ……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6404u/>

---

DOGDAYS～猛き旅人

2011年10月9日09時46分発行